

### 「黒曜石の探究(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「黒曜石体験ミュージアム」は、館内の展示が美しく整っているだけでなく、教育普及的な要素も多分に感じられる。



例えばこの展示は、旧石器時代---縄文時代---現代と、道具の実物と使われ方の変遷が、大変判りやすく展示されている。これなら、5年生の児童にもよく理解でき、大変良い学習になる。

さてこの博物館では、「体験」の名を冠する通り、さまざまな体験プログラムが用意されている。学校団体向けのプログラムだけでも9種類もある。

- ①黒曜石の矢じり ②黒曜石のキーホルダー
- ③骨角器ペンダント ④勾玉 ⑤縄文織コースター
- ⑥磨製石斧 ⑦黒曜石の彫刻 ⑧縄文ネックレス
- ⑨黒曜石のオブジェ



今回はこの内、黒曜石に最も関連が深い①と②から、参加する子どもたちに選ばせた。体験料金も材料費、

指導料込みで540円と手頃で、予算上も大変助かった。41人の参加児童は、ほぼ半数ずつ選んでいた。男児には矢じり、女児にはキーホルダーが人気だった。



学芸員の方からの詳しい説明のあと、さっそく体験製作にとりかかる。黒曜石は本来、動物の骨や角で削って道具を作っていたらしい。ここでは、先端に太い銅線がついた道具を使って、黒曜石を削る。



「削る」というよりも、周縁部を「砕く」という感覚に近い。子どもたちは最初コツをつかめなかったが、サポートの職員の方が多く、親切に教えて下さった。



約1時間で、何とか形になってきた。これは女児が削り出した「黒曜石の勾玉」なかなかの傑作だ。